

モズク養殖実態調査による計画生産 — 計画生産に向けたアンケート調査 —

瀬 底 正 武

1. 調査の目的

モズクは、養殖技術の向上により安定的に供給できるようになったが、流通面に於いて県内既存業者とのからみがあって、現在まで系統共販体制がかならずしも、スムーズにいつているとは思われない。そういった観点から、これまでのモズク養殖の実態を調査し、計画生産による流通の円滑化を推進し、モズク養殖漁業の健全なる発展を図る必要があり、同調査を実施した。

2. 調査方法

調査は、別紙調査表により生産地区15漁協の生産部会代表者等により、直接聞き取り調査を実施した。その結果、52名の生産者代表から意見等聴取することができた。

3. 調査内容

- (1) 養殖技術に関すること
- (2) 品質管理に関すること
- (3) 流通に関すること
- (4) 等級検査制度に関すること

4項目について、アンケート形式により直接聞き取り調査を行った。今回は、アンケート調査結果について報告する。全体の総括については、後日、別冊で報告したい。

4. 調査実施期間

平成7年度（アンケート調査）平成8年度・平成9年度（県モズク養殖振興協議会との連携で、各地区生産部会と計画生産に向けての交流会を行う。） ※平成8年度『沖縄県もずく養殖業振興協会』発足

5. アンケート調査結果

Q1. 養殖技術に関すること

1) 種保存技術について

ア. 種保存技術は、本モズク・糸モズクとも十分マスターしている。

..... 9.6%

イ. 十分とは言えないが、何とか続けている。

..... 39.4%

ウ. 種保存は、面倒なので実施していない。

..... 51.0%

2) 種保存技術の必要性について

ア. 必要だと思う。 57.8%

イ. 必要ではない。 13.4%

ウ. どちらとも言えない。 28.8%

3) 採苗・中間育成（育苗）本張りの一連の養殖技術について

ア. 確立されたと思う。 13.4%

イ. 十分ではないが一連の養殖技術として、普及された。 48.2%

ウ. 不安定であり、確立つれたとは思わない。 38.4%

4)、3)との関連で、各地区の漁場条件に合った養殖技術かどうかについて

ア. 十分に対応出来る技術である。

..... 26.9%

イ. 漁場に合わせた技術開発が必要である。

..... 61.5%

ウ. 漁場条件に合っているかどうか、良く分からない。 11.6%

Q2. 品質管理に関すること

1) 品質管理の必要性について

- ア. 品質管理は、厳しすぎるほど徹底されている。 9.6%
- イ. 厳しくはないが日頃から品質管理には心がけている。 67.3%
- ウ. 品質管理については、深刻に考えたことはない。 19.2%
- エ. 品質管理は必要ない。 3.9%

Q3. 流通に関すること

1) 流通・販売について

- ア. 漁連を窓口として、一元集荷を図る必要がある。 57.6%
- イ. 漁連を通さず、各漁協で販売能力に応じた生産を考えるべきである。 38.6%
- ウ. 各漁協が販売努力をすればよい。 3.8%

2) モズクの原藻単価について

- ア. 本モズクは、100円～150円 63.4%
 - 150円～200円 26.9%
 - 200円以上 9.7%
- イ. 糸モズクは、100円～150円 15.3%
 - 150円～200円 55.7%
 - 200円～250円 21.4%
 - 300円以上 7.6%

Q4. 等級検査制度に関すること

1) 品質による等級制度について

- ア. 等級制度は必要である。 48.0%
- イ. 等級制度は必要でない。 32.6%
- ウ. 分からない。 19.4%